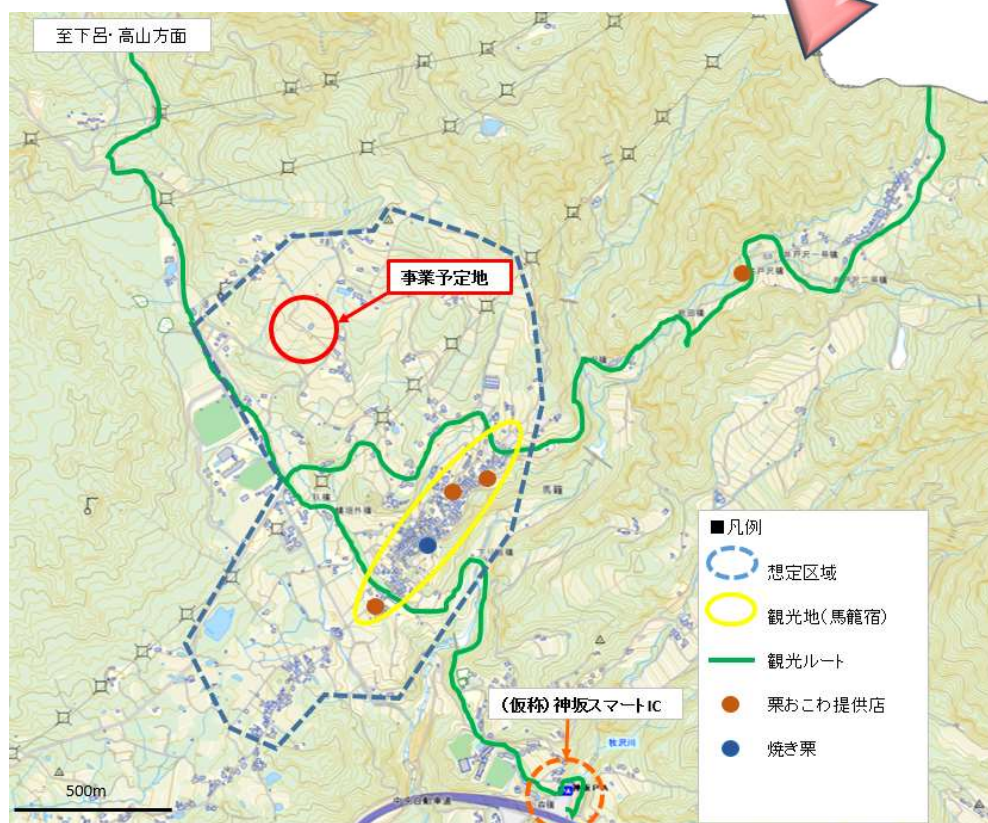
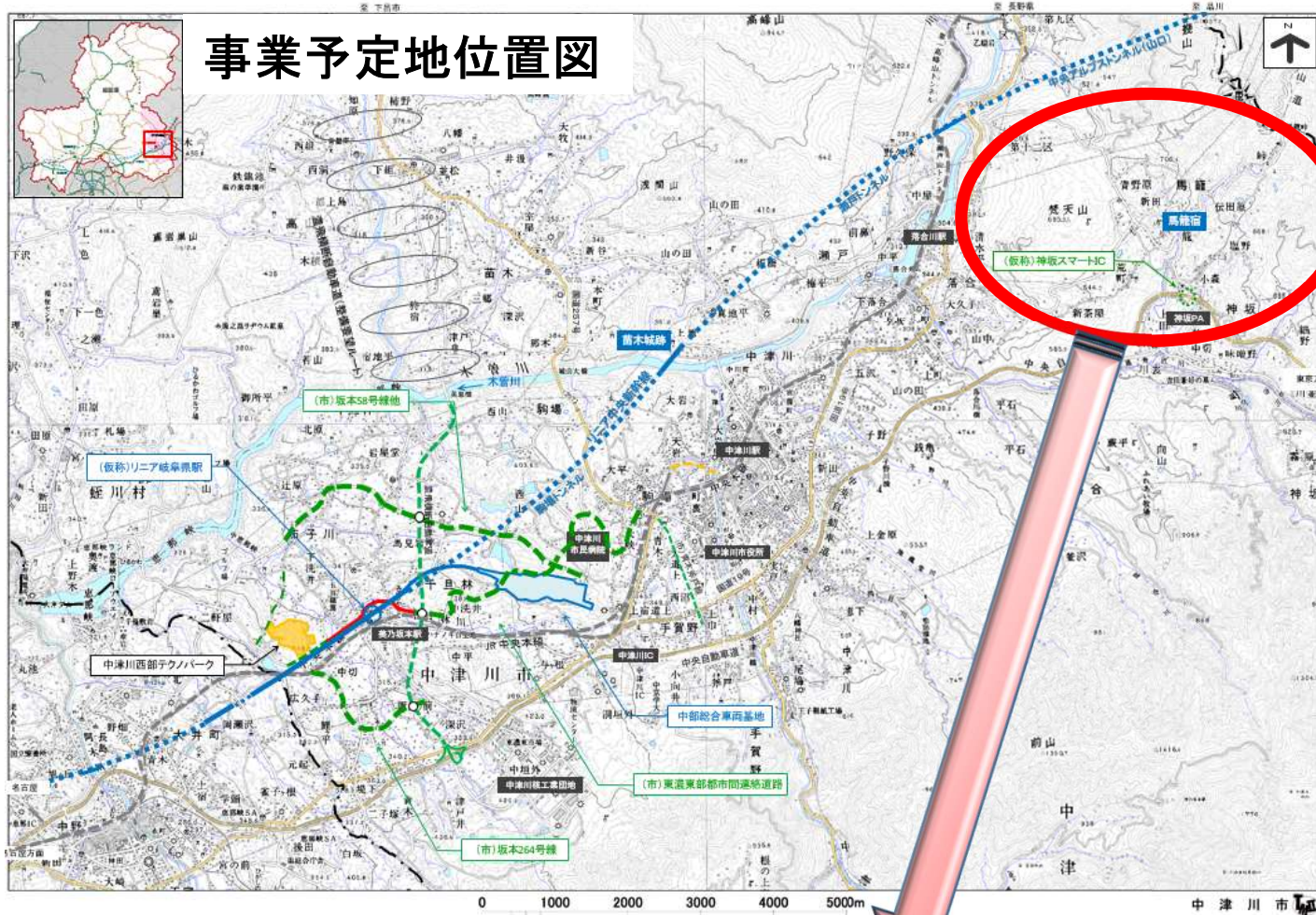


# 中山間地農業ルネッサンス推進事業 馬籠地区栗園整備（高収益作物の生産）

## 事業予定地位置図



## ● 事業実施までの経緯

■ 馬籠地区の区長さんから、地域の農地について相談が寄せられる

### 相談内容

- ・ 観光地である馬籠地区において近年耕作放棄地が増加
- ・ 景観維持の観点からもそば等を作付けし農地として維持していきたい。
- ・ NPO法人の設立を予定しており、その団体で取り組みたい。
- ・ 活用できる補助事業がないか教えてほしい。

■ 恵那農林事務所農業普及課に活用可能な補助事業や栽培品目について相談

### 取組の方向性

- ・ 中山間地農業ルネッサンス事業の活用を検討
- ・ 中津川、恵那地域で普及を進めている栗の栽培を目指していく。
- ・ 収穫した栗について、観光資源としての活用も検討し、整備を進めていく。

## ● 事業開始に先駆けて、実施主体となる協議会を設立

■ 関係機関・団体に呼びかけ、補助事業の実施主体となる「馬籠地区農地活性化協議会」を設立し、NPO法人馬籠村の代表者を会長に選出

■ 馬籠地区農地活性化協議会構成員とその役割

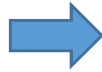
- ・ NPO法人馬籠村 （栗の栽培）
- ・ 馬籠観光協会 （観光関係事業者との連携）
- ・ 岐阜県恵那農林事務所農業普及課 （栽培技術指導）
- ・ 岐阜県中山間農業研究所中津川支所 （植栽品種の選定、技術指導）
- ・ 東美濃農業協同組合恵那北アグリセンター （苗等資材の手配、栽培指導）
- ・ 中津川市農林部農業振興課 （事務局）



## ●馬籠地区農地活性化協議会により事業を実施

### 取組内容

- ①荒れた果樹園等を再整備
- ②高収益作物（栗）を導入
- ③栗の栽培講習会の実施
- ④マーケット調査の実施



### 期待される効果

- ①観光地における景観形成
- ②地域で取り組む6次産業化の基盤を構築  
(新たな観光地の付加価値)
- ③安定栽培に向けた技術の習得
- ④今後の商品開発に向けた需要の確認

## 取組内容 ①荒れた果樹園等を再整備

### ■補助金を活用し、栗園造成工事を実施

施工前



施工後



## 取組内容 ②高収益作物（栗）の導入 1

### ■品種の選定

#### 品種選定ポイント

- ・馬籠地区でどのように栗を活用していくのか
- ・馬籠地区の気候と標高への適正
- ・収穫時の労働力の平準化
- ・地域特性のある品種

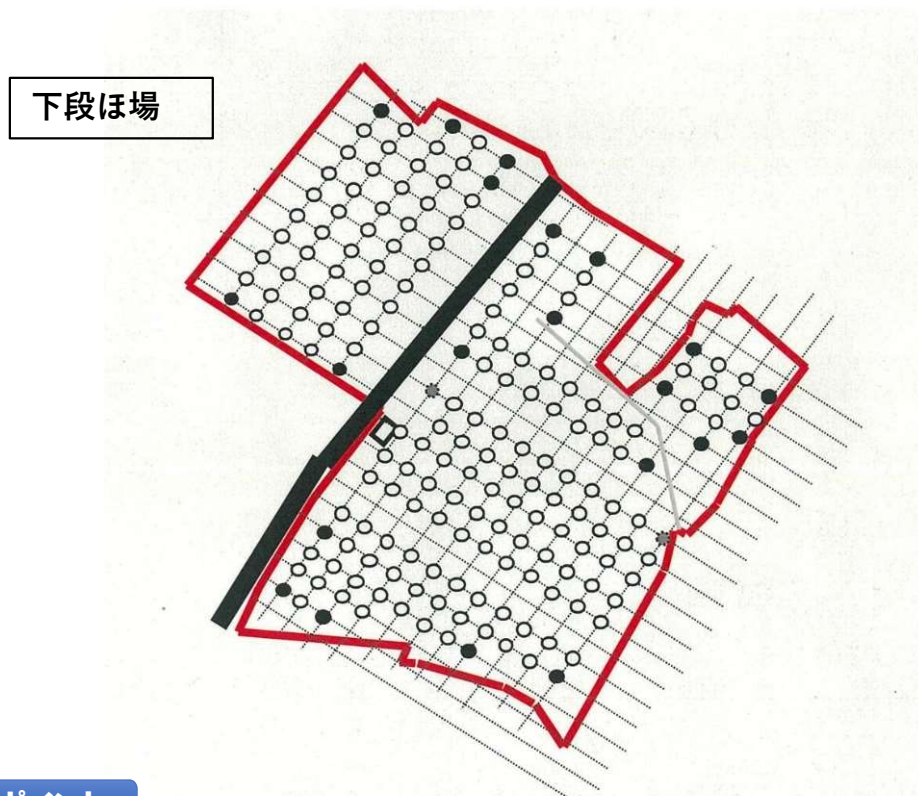


#### 品種選定

- ・剥き栗に適した品種と、菓子等に適した加工用品種を採用
  - ・収穫時期がずれるよう、極早生品種、早生品種、中生品種、晩生品種をバランスよく採用
  - ・この地域で開発された「えな宝来」をはじめ、6品種を選定
- ※岐阜県中山間地農業研究所中津川支所及び、岐阜県恵那農林事務所農業普及課に気温等への耐性を確認しアドバイスをいただき決定

### ■植栽配置計画

ほ場を確認し、どのように植栽するか計画図を作成



#### 配置計画ポイント

- ・作業用通路を確保
- ・植栽位置は5m間隔で計画
- ・現地の傾斜や陽当り、水路等の状況を加味し計画
- ・初めに基準となる●の位置を測り出し、その後すべてのポイントに支柱等を目印として設置



## 取組内容 ②高収益作物（栗）の導入2

### ■植栽位置の図り出し

基準となる位置を測り出し、その後すべてのポイントに目印となる支柱を設置



[基準となる位置の測り出し]



[植栽位置に支柱を設置]

### 植栽位置測り出しポイント

- ・ 基準となる位置は、一方に偏らないようほ場全体の形状を考慮し測り出しを行う。
- ・ 支柱は、植える品種別にスプレー等で色分けし、植え付ける品種がわかるようにする。
- ・ 1.8m～2m程度の支柱を使用

### ■植栽

NPO法人馬籠村により苗の植付を実施



[植栽場所を掘削]



[苗木を植え30cm程度盛土]

### 植栽のポイント

- ・ 植栽する場所を重機により深めに掘削し、土を柔らかくする。
- ・ 掘削した土に肥料等を混ぜ、苗木を植え付ける。
- ・ 凍害予防として、苗木の周り30cm程度盛土する。

## 取組内容 ③栽培講習会の実施

### ■栽培講習会により栽培技術を習得 普及指導員及び名人剪定士から基本知識と栽培技術について受講



[基本技術の説明]



[剪定の実演及び実習]

#### 講習会の内容

- ・ほ場準備準備・苗木植栽の基本知識
- ・凍害被害・対処法の基本知識
- ・苗木植栽の実技指導
- ・整枝剪定を含む年間作業の基礎知識 等

## 取組内容 ④マーケット調査の実施

### ■馬籠宿の観光客を対象にアンケート調査を実施

#### 【お土産の購入金額】

金額	割合
2000円以上	10%
1000円～2000円未満	47%
500～1000円未満	39%
500円未満	4%

#### 【興味のある栗商品】

商品名	割合
栗菓子	59%
栗料理（栗おこわ等）	21%
生栗	14%
焼き栗	4%
無し	2%

#### アンケートの傾向

- ・お土産としては、500円～2000円以内の栗菓子が観光客のニーズ
- ・地元産の栗を使用した栗おこわ定食は、地元以外の栗を使用した栗おこわ定食より1.2倍～1.5倍の価値があると回答した方が8割を占めた。
- ・馬籠地内の飲食店等を対象に行ったアンケートでは、ほとんどの飲食業と民宿ですでに地元農産物を使用していると回答
- ・仕入れ可能な地元産農産物があれば、多くの店で利用すると回答されたが、価格等によるといった条件も見られた。



## ●今後の展開

### ■栗の安定生産を目指し、さらなる栽培技術の習得を目指す

- ・定植後4年目程度から始まる収穫に向けて、県等が開催する講習会に参加し、さらなる栽培技術の習得に努める。
- ・定植後7年目以降に「低樹高栽培」を取り入れ、大玉で高品質な栗の生産を目指す。

### ■景観に配慮したほ場管理の実施

- ・ほ場の定期的な草の刈り取りを実施し、良好な農村風景の維持に努める。
- ・新たに開通予定の神坂SAスマートインターから馬籠を經由し川上地区までをつなぐ「みやさか花街道」の取組である花桃と桜の植栽に合わせて、ほ場周りに花桃を植栽し、「みやさか花街道」の取組と一体となった景観形成を実施

### ■栗の活用

- ・ぼろたん等の剥き栗品種については、NPO法人馬籠村の会員が所有する冷蔵設備で一定期間貯蔵し熟成させ、馬籠宿の飲食店等で販売・活用していく。  
【特産品例】 馬籠産の焼き栗、馬籠産栗を使用した栗おこわ、馬籠づくし定食（馬籠産のそば、栗、野菜等を使用）等
- ・恵那宝来等加工に適した品種については、栗菓子の原材料として飲食店のデザート等で活用するとともに、新たな商品開発を進め、馬籠宿や神坂パーキングエリア等でお土産としての販売することを検討していく。



ほ場から一望に見渡せる恵那山